

NO!「危険ドラッグ」

～あなたの人生を壊します～

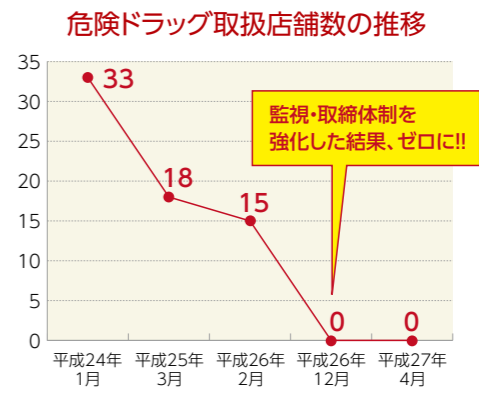
1 危険ドラッグの危険性

危険ドラッグは、覚醒剤や麻薬などの規制薬物以上に人体に有害な化学物質(毒物)を混ぜ合わせたものです。一度使用するとやめたくてもやめられなくなり、脳や内臓などを破壊したり、全身がいれんや呼吸困難、意識喪失に陥るなど、最悪の場合は死に至ることもあります。



2 危険ドラッグの現状

県内の危険ドラッグ取扱店舗数の推移は次のとおりです。



また、危険ドラッグが原因と疑われる救急搬送は、平成24年は40名、平成25年は19名と減少傾向にあると思われましたが、毒性が強い危険ドラッグが流通したことにより、平成26年は33名と増加しています。



3 罰則と法改正

指定薬物は、その「製造」「販売」「所持」「使用」「購入」「譲受け」等が禁止され、違反した場合は3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金が科されます。また、現在も随時法改正が行われ、平成27年5月11日現在で指定薬物は2,297物質、麻薬に格上げされたのは170物質と規制対象が広がりました。さらに、店舗及びネット販売業者に対する立入指導や警告、販売停止命令が可能となるなど、取締りが強化されています。

危険ドラッグは「毒」です。
ゼッタイに使用してはいけないものであることを認識しましょう!

薬物に関する情報は 警察署または110番へ
沖縄県警察

シリーズの いーじま うむがむち

郷愁誘う
島のやさしい甘味

沖縄本島北部に位置する本部半島から北西9キロ沖に浮かぶ伊江島。イージマツチユーでお馴染みの島で地元の人々に愛されている「いーじまうむがむち」は、もち粉で作った生地に紅芋や黄金色のさつま芋を練り込み、えんどう豆の餡を包み込んだ甘さ控えめの優しい味わいのお餅。月桃の葉の上で蒸し上げられた餅は湯気とともに甘く爽やかな香りを漂わせ、ツヤツヤぼつてりの愛らしい表情をのぞかせます。

かつては法事などの際に各家庭で作られていたといううむがむちですが、戦後になると行事の時だけでなくおやつなどにも気軽に作られるようになり、子どもたちも大好きな甘味としてより親しまれるようになつていきました。

島で穫れた芋や豆を使い工夫を凝らした手作りの餅には昔ながらの素朴な味わいと愛情が詰まっています。



撮影協力：いーじまうむがむち (南風原町)

ふるさと卓食

健康な笑顔の素・食と体づくり 伊江島



下回りました。現在大人は大人の歯科衛生にも力を入れ、村民全体で8020*達成を目指しています。
*80歳まで20本の歯を維持すること

伊江島では平成初期、3歳児虫歯有病率が県内ワースト1という記録を更新し続けていました。そこで村医療保健課では19年度からフッ化物塗布やフッ化物洗口を保育園で開始すると虫歯が激減、さらに幼稚園、小中学校にもフッ化物洗口を広げたとこる24年度には県平均を下回りました。

伊江島の笑顔
フッ化物洗口でワースト1返上